

政務調査研究視察 報告書

報告者：加藤 義幸

視 察 日	平成 23 年 2 月 8 日 (火)
視 察 内 容	足立区 定期監査 (部長監査) の公開について
視 察 者	近藤隆志、中根勝美、永田寛、新海正春、加藤義幸

足立区の概要

足立区は東京 23 区の最北端に位置し、区域の総面積は 53.20 k m² で 23 区域総面積の約 1 割にあたり大田区、世田谷区について第 3 位の広さである。四方を川で囲まれ、東西約 11.10 k m²、南北約 8.79 k m² の比較的まとまりのある形で、北千住を要とするやや扇状の地形を呈している。平成 22 年 4 月 1 日現在の人口は 643,077 人。千住地域には 5 つの大学が揃い、「文化・産業・芸術新都心構想Ⅱ」に基づき、足立区の顔となる千住の魅力づくりを進め、積極的に発信している。



定期監査 (部長監査) の公開について

代表監査委員の申し出により、公開に反対に意見も無かったことから 22 年度公開に踏み切った。

<公開の目的>

1. 監査委員の活動、監査制度を区民に直に知ってもらう
2. 区政の透明性の向上

<公開の考え方>

地方自治体の監査制度については、その機能強化に向けた様々な議論がなされているが、その背景には、住民にとって監査あるいは監査委員との距離が余りに遠い現状がある。そのなかで、監査委員としては、自らの活動について、その結果 (指摘・意見表明) を区民に公表するだけでなく、活動の様子を具体的にありのまま示していくことで区民の理解を得ていく姿勢を持つことも必要ではないか。

<対象監査>

各期の締めくくり監査である「部長監査」

<公開までのスケジュール>

- 5 月 準備開始。局内議論、監査委員議論
- 8 月 庁内・議会に周知
- 9 月 傍聴要綱策定
- 10 月 25 日 あだち広報・ホームページ掲載
- 11 月 2 日 マスコミ流し
- 11 月 10 日 実施

9 時 30 分～10 時 55 分 (学校教育部・生涯学習部)

定員 36 名の会議室

傍聴者：一般 6 名、報道機関 5 名、自治体 1 名、区議 4 名、区民評価委員 2 名、
区関係 2 名 合計 20 名

主な質疑：

- ①特色ある教育支援事業のあり方について
- ②野外レクレーションセンターの特命随意契約について
- ③小学校拡張用地における施設建設のリース契約について

12月17日 2回目実施

9時30分～10時10分（福祉部）

10時15分～10時50分（子ども家庭部）

10時55分～11時45分（区民部）

定員30名の会議室

傍聴者：一般3名、自治体2名、区議1名、区民評価委員5名 合計11名

主な質疑：

①生業資金貸付の償還について

②保育料の滞納について

③住基カードの普及促進について

* 23年度も部長監査の公開は続ける。

<感想・岡崎市への反映>

足立区の取り組みは全国でも初めてで、画期的な取り組みと思う。公開の目的である監査委員の活動、監査制度を区民に直に知ってもらう良い機会である。ただ、一般傍聴者は、無記名で傍聴できるシステムをとった事、傍聴者アンケートもしていない為、今後の改善につなげにくいし、本当に区民が傍聴したのか、今となっては確認が出来ない。

本市に於いても、監査委員の同意さえあれば取り入れても良い事業であると思う。



政務調査研究視察 報告書

報告者：加藤 義幸

視 察 日	平成 23 年 2 月 9 日 (水)
視 察 内 容	ENEX 2011、Smart Energy Japan 2011
視 察 者	近藤隆志、中根勝美、永田 寛、新海正春、加藤義幸

ENEX 2011

Smart Energy Japan 2011

(主催：財団法人省エネルギーセンター)

「低炭素フロンティアを目指して」をキャッチフレーズに 2 月 8 日～2 月 10 日迄東京ビッグサイト西ホールにて開催された。125 の企業、団体のブースがあり、それぞれに低炭素社会の実現、地球温暖化防止に向けた取り組み、製品などの展示がなされていた。限られた時間では、とても全ブースに立ち寄ることはできなかったが、財団法人省エネルギーセンターのブースでエコドライブ診断をしていたので、体験してみた。エコドライブとは無駄なアクセルの踏み込み、速度のムラ、アクセルオフのタイミングなどを測定し、標準エコドライブと比較して年間 CO₂ の排出量の差、ガソリン代の差がすぐわかるもの。私の場合年間で 26,499 円無駄にしているという診断結果でした。また CO₂ の排出量は 554kg 増えるという事でした。

今回の視察で、まだまだ個人の責任で低炭素化社会の実現に向けて取り組めることが多々ある事を再認識させられた。個人の力は微力だが、集まれば、膨大な力になることも再認識したので、人それぞれがそれぞれに、出来ることに取り組むべきである。

